

お祝い

- 巻頭言 / 編集委員長 三宅 成司郎 k10-2

- 田中紀男先生が勲章をうけられました / 定兼 廣行 k10-3
- 田中紀男先生の叙勲 / 池田 良穂 k10-4
- 追い出しコンパの思い出 / 奥野 武俊 k10-5

特集：卒業

- 4年間を振り返って / 松井 敦 k10-6
- 奥野先生との出会い / 中島 敦子 k10-7

シリーズ：今、大学は

- 求む志願者—AO入試 / 城野 隆史 k10-8
- 大阪府立大学の新しい入試—AO入試 / 正岡 孝治 k10-9

◆表紙◆

「沖縄の海」
牧野 功治
(大学 41 期)

◆表紙デザイン◆

平岡 良介
(大学 49 期)

- おるがん・めだか・針穴写真 / 山岡 元宏 k10-10
- 至誠寮 同窓会報告〔第3回〕 / 杭田 嘉夫 k10-11
- 海洋地球観測船「みらい」に乗船して / 吉村 明子 k10-12
- VLCCに初乗船して / 佐地 健太郎 k10-13

- オンライン振り込みの試行開始について / 山田 智貴
- 事務局より
- 理事会報告 / 平成 19 年度会計予算案 k10-14
- 会員録 update 26

■ 編集後記

「鷗朋」編集委員 岸 光男(大学 25 期) 竹田 太樹(大学 30 期) 三宅 成司郎(大学 30 期)
野口 利仁(大学 33 期) 池田 和外(大学 35 期) 有馬 正和(大学 37 期)
中谷 直樹(大学 45 期) 奥村 英晃(大学 46 期)

巻頭言

編集委員長 三宅 成司郎(大学 30 期)

「新年明けましておめでとうございます。同窓生の皆様におかれましては、お元気で新年を迎えられたことと思います。・・・」と、この巻頭言の原稿を書いているときは新年早々でありましたが、この賜朋第 10 号が皆様のお手元に届く頃は、もう春の息吹が聞こえている頃であります。

各種の経済指標は、いまだに景気が上向きであることを示しているようで、企業の収益は向上しているようです。ただ、「我々一般庶民にその恩恵が享受されているのか？」と、少々首をかしげたくなりますね。また、政府は今国会への提出は見送ったようですが、ホワイトカラー・エグゼンプションという新しい労働形態を導入しようとしています。これは、同窓生の方々にも少なからず関係してくる制度だと思えますが、うたい文句のとおり果たして本当に「残業を減らし、労働時間を短縮する」ということになるのか？「残業代ゼロ、負担は増加」ということにならないのかな？と、やっぱり疑ってしまう・・・ などなど考えていると、年頭から愚痴ばかりになりました。

愚痴で始まりましたが、同窓会にとって去年は喜ばしい出来事が一つありました。新聞報道などで既にご存知のこととは存じますが、田中紀男名誉教授が平成 18 年秋の叙勲で「瑞宝中受章」を授与されました。瑞宝章は、「公共に対し功労があり、公務等に長年従事し、成績を挙げた者に国が授与するもの」とのことで、田中先生の長年の学内外への貢献度の大きさを示すものであり、誠におめでたいことです。ここに、皆様と一緒に祝意を表したいと思います。今回の叙勲に対して教え子である 3 名の方々からお祝いの文を頂戴しましたので、後ほど紹介させていただきます。

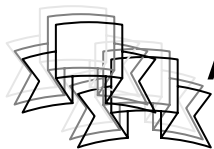
同窓会誌が「賜朋」に改まり、今号で第 10 号という節目の発刊となります。この節目にあたって、改めて年間 2 回の会

誌発行を目標に途切れることなく編集に努めて参りますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いたします。

さて、この第 10 号の特集ですが、「卒業」ということで巣立ちゆく学生さん達に大学生活を振り返っての思い出や研究や人との出会いで感じたことなどを熱く語っていただきます。大学というある意味社会から隔絶されたシールド内にて楽しく過ごせた(??)であろう数年間から、社会という荒波の真っ只中へ乗り出すのですから、学生さんもそれ相当の覚悟が必要です。これを読まれた諸先輩方から、エール・叱咤激励・良きアドバイスなど頂ければ幸いです。それら頂戴しましたアドバイス等は、在学中の学生さんにとっても大変貴重なものとなりますので、賜朋にまとめて取り上げたいと考えます。

大阪府立大学が、独立行政法人として新しい体制・組織になって 2 年が経過しました。この 2 年間は学内の体制を固める土台作りの期間であり、先生方がその基礎作り奔走され、ようやく落ち着いてきた頃ではないかと考えます。これからは今の体制・組織をより一層強固にし、更に発展させるために「海洋システム工学科は何をすべきか？」を検討すべき段階に来たのかと思っています。これに関しては、学内におられる先生方にお任せにするのではなく、同窓会のネットワークを最大限に活かして意見交換しながら学科の将来のあるべき姿を模索することが必要かと思えます。同窓生の英知を結集して、海洋システム工学科を盛り立てていくことができれば素晴らしい。そのための情報・意見交換の場としても、この同窓会誌「賜朋」を活用いただければと思います。

末筆ではありますが、今年一年が皆様方のますますの飛躍の年となりますように。



田中紀男先生が勲章をうけられました

会長 定兼 廣行(大学 15 期)

平成 18 年度秋の叙勲で、田中先生が瑞宝中綬章を受章されました。我々の恩師がこのような名誉ある勲章を受章されたことは大きな慶事であり、賜朋会、同窓生にとりまして嬉しく誇らしいことです。

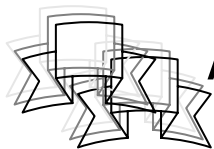
田中先生は、本学の前身の官立大阪工業専門学校から大阪大学工学部造船学科に進まれ、ご卒業の昭和 25 年母校(当時は旧称浪速大学)の船舶工学科に赴任されました。そして平成 2 年にご退職されるまで 40 年間に亘って後輩のご指導をいただきました。この間、先生の講義を受けた同窓生は、単純計算では造船 7 期(昭和 26 年卒業)から大学 39 期(平成 3 年卒業)までの約 1000 名に及びます。これらの同窓生は講義以外でもほぼ全員何らかの形で先生の警咳に接し、先生のユニークなご指導に強く印象を残しておられることと思います。

同窓会に関係しましては、同窓会の立ち上げに始まり、大所高所から同窓会の運営に適切にご指導をいただけてきました。同窓会理事会は、構成員が 20 代から 80 代まで、新社会人から青年―壮年―実年―隠居まで、孫から祖父までと年齢、社会経験、立場などが実に多彩ですので、またその上に、皆さん論客の気がありますから議論が盛んです。このような中であって先生のご意見は何時も論拠があり、筋が通っていますので、なかなか論破できませんが、元々発想

が柔らかいために若い人の言い分も良く理解を示してられました。このような雰囲気の中で、同窓会のあるべき姿や方向性について、また理事会の役割や機能について示唆をいただけています。最近では、同窓会名の改称問題や同窓生名簿のセキュリティーについて、配慮の行き届いた議論をいただきました。

上に述べましたような、同窓生へのご指導と同窓会へのご貢献に改めて感謝する意味から、先生のご授章に際して同窓会と教室で祝賀会を開こうとの声があがりましたが、教室主任の馬場先生を通して先生は一切の「お祝いの会」の催しを辞退しておられる旨の伝言を受け、早々に念を押されてしまいました。私がお訪ねした折にもそれを改めて申されました。奥野先生(現在工学部長、前副会長)並びに岩崎、池田両副会長ともご相談し、華やかなことを好まれない先生のお気持ちに沿って、12 月に開かれます理事会でお祝いを申し上げ、花束を贈呈させていただくこととしました。同窓会としては、本当にささやかにお祝いの気持ちを表させていただいただけでも拘わらず、先生からは同窓会に内祝いとして寄付金を頂戴してしまいました。恐縮の上ありません。

今後とも、ご健康で同窓会のご意見番としてこれまで通りご指導とご鞭撻をお願い申しあげます。



田中紀男先生が勲章をうけられました

会長 定兼 廣行(大学 15 期)

平成 18 年度秋の叙勲で、田中先生が瑞宝中綬章を受章されました。我々の恩師がこのような名誉ある勲章を受章されたことは大きな慶事であり、賜朋会、同窓生にとりまして嬉しく誇らしいことです。

田中先生は、本学の前身の官立大阪工業専門学校から大阪大学工学部造船学科に進まれ、ご卒業の昭和 25 年母校(当時は旧称浪速大学)の船舶工学科に赴任されました。そして平成 2 年にご退職されるまで 40 年間に亘って後輩のご指導をいただきました。この間、先生の講義を受けた同窓生は、単純計算では造船 7 期(昭和 26 年卒業)から大学 39 期(平成 3 年卒業)までの約 1000 名に及びます。これらの同窓生は講義以外でもほぼ全員何らかの形で先生の警咳に接し、先生のユニークなご指導に強く印象を残しておられることと思います。

同窓会に関係しましては、同窓会の立ち上げに始まり、大所高所から同窓会の運営に適切にご指導をいただけてきました。同窓会理事会は、構成員が 20 代から 80 代まで、新社会人から青年―壮年―実年―隠居まで、孫から祖父までと年齢、社会経験、立場などが実に多彩ですので、またその上に、皆さん論客の気がありますから議論が盛んです。このような中であって先生のご意見は何時も論拠があり、筋が通っていますので、なかなか論破できませんが、元々発想

が柔らかいために若い人の言い分も良く理解を示してられました。このような雰囲気の中で、同窓会のあるべき姿や方向性について、また理事会の役割や機能について示唆をいただけています。最近では、同窓会名の改称問題や同窓生名簿のセキュリティーについて、配慮の行き届いた議論をいただきました。

上に述べましたような、同窓生へのご指導と同窓会へのご貢献に改めて感謝する意味から、先生のご授章に際して同窓会と教室で祝賀会を開こうとの声があがりましたが、教室主任の馬場先生を通して先生は一切の「お祝いの会」の催しを辞退しておられる旨の伝言を受け、早々に念を押されてしまいました。私がお訪ねした折にもそれを改めて申されました。奥野先生(現在工学部長、前副会長)並びに岩崎、池田両副会長ともご相談し、華やかなことを好まれない先生のお気持ちに沿って、12 月に開かれます理事会でお祝いを申し上げ、花束を贈呈させていただくこととしました。同窓会としては、本当にささやかにお祝いの気持ちを表させていただいただけでも拘わらず、先生からは同窓会に内祝いとして寄付金を頂戴してしまいました。恐縮の上ありません。

今後とも、ご健康で同窓会のご意見番としてこれまで通りご指導とご鞭撻をお願い申しあげます。



追い出しコンパの思い出

大学 17 期 奥野武俊

この度、田中紀男先生が叙勲されました、心からお祝い申し上げます。

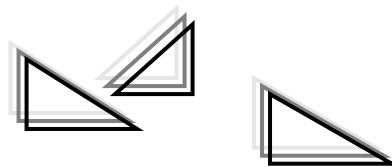
田中先生との出会いの時の思い出して、少し書いてみます。ただ、すでに誰かに話した事があるような記憶がありますので、もし重複していれば・・・その時はお許し下さい。

我々が入学した昭和 40 年当時は、新入生が入ってくると、その時の 2 年生が新入生歓迎コンパを主催し、4 年生が卒業する時は、3 年生が追い出しコンパをする慣わしがあったのですが、私達が入学した時は、何かの手違いがあったのか、歓迎コンパが行われませんでした。他学科では、どこでも歓迎コンパが行われていたので、みんな残念な思いで、“それでは勝手に自分たちでやろう・・・”ということになって、4 月から何度かコンパを繰り返し、5 月の友好祭の時には、かなりクラスの結束が良くなっていました。この雰囲気がクラスにあって、なんでもまとまって色々なことに取り組みました。マージャンはもとより、ソフトボールや合コン、時には数学の勉強会までやった記憶があります。

我々が 3 年生になった時、本来なら追い出しコンパを計画しなければなりませんでした。歓迎コンパをしてくれなかった先輩達が対象ですから、みんなの気持ちはなかなかまとまりません。「追い出しコンパは止めよう・・・」と、誰かが言い出すと、そうだ・・・という事になってしまいました。そんな我々の言動を、誰かが話したのでしょう。あのボロの木造

製図室(覚えておられる方は少なくなっただしょうね)に、ある日、助教授の先生が突然入ってきたのです。今とは違って、学科の先生と親しく話をする機会にはほとんど無く、講義を取っていなければ、名前も顔も分かりませんから、みんな「この人は誰？」という雰囲気ですり込んで話をしました。その方は、なぜ追い出しコンパをしないのか？と聞きに来たのです。我々の話を聞き、「確かに、彼らに落ち度はあったのだろうが・・・、だからといって、送らないのはどうか・・・」というような話をされて、我々を説得したのです。それが、田中先生でした。

クラスメートには、なかなか納得しなかった者もいたのですが、結局追い出しコンパを企画することになって、当時は、先生と学生の距離はかなりありましたから、気軽に先生の研究室に行ったりする習慣は無かったのですが、礼儀もあまり分からないまま、みんなの手分けして、先生に出席を頼みに行ったので、学科のほとんどの先生が出席されました。後で分かったことですが、あれほどたくさんの先生が出席された例は無かったそうです。あの時、田中先生が説得に来ていなければ、あのコンパは行われなかった、思い出のひとつコマです。



4年間を振り返って

海洋システム工学科4回生 松井 敦

学生生活も終わりに近づいた頃に(とは言ってもすぐに院生生活が始まるのですが)、「卒業にあたって4年間を振り返ってくれ!」といった依頼を受け、振り返ってみたのですが、思い返せば何のドラマも無かったような気がします。3回生までは、普通に勉強し、普通にバイトし、普通に遊び、気が付けば次は4回生、でもそれまでに勉強したことなんてほとんど忘れていて!という一般的な(?)学生でした。自分が全く成長していない気がして、このままでいいのかと悩み、本気で休学を考えたりもしました。せっかくお金を払って大学に来ているのだから何かを得たいと強く思う反面、生来の面倒くさがりで事なかれ主義の性格は変えることもできず、ただ惰性で4回生になった感がありました。

そんな僕が4回生になり、大塚先生の研究室に入ったことで何が変わったかというところ…本質的には何も変わっておらず、相も変わらずのダメ人間です。しかし、学んだことはたくさんあります。問題解決へのアプローチ方法、人同士の繋がり、信念を持つこと、お酒の飲み方、食は人を幸せにすること、etc…、最後の方は冗談っぽくなってしまいましたが、実際にそのようなことまで「学んだ」と思えるように自分が変化したのだと思います。つまり、「普通の勉強」「普通のバイト」「普通の遊び」を大事な「経験」として捉えることができるようになったということです。知識を身に付けることは重要ですが、そのためにはなによりも経験が必要である、研究室に入ってそのような実感ができたというわけです。

そう感じたのは、何よりも「環境調査」の存在が大きいと思います。ご存知の方はわかると思いますが、我が大塚研究室では年間を通じて様々な場所で調査を行っており、研究室の一員である僕も当然それに参加します。準備は面倒だ

し、当日は朝とても早いし、提出期限の前でも試験前でも容赦ない日程で組まれたりもして、正直言って大変です。自分の研究に関係の無いフィールドで行う調査を手伝ってくれる方々にはいくら御礼を述べても、述べ足りないほどです。しかし、それを補って余りあるほど「現場で感じる」といった経験をしなければ分からないことがあります。

例えば、この水域はこんな水質だよ、というデータを渡され、それを元に研究を行っても、教科書的な解析しかできないし、さらなる問題点を洗い出すことはできないと思います。また、たとえ課題が出てきたとしても、次のデータを待つ受身の状態で研究を進めていかなくてはなりません。もっと多角的に分析を行い、迅速な問題解決を行うためには現場を見るのが一番だ、と調査をすることによって感じました。もちろん僕はまだまだ思慮が浅く、せっかく現場を見ても見逃してしまっていることがたくさんあります。研究室に戻ってきてから、あれもやっておけばよかった!と思うことも一度ではありません。しかし、いつかは先生方のように、現場で適切な判断を行えるようになりたいと思います。



集合写真(何故か学科事務の原田さんも!?)

特集：卒業

ここできれいに終わってもよかったのですが、実は「現場でしか分からないこと」はもう一つあります。僕の研究は深層水利用についてで、研究フィールドは高知県の室戸岬です。室戸の調査は3泊4日の泊まりこみで行うのですが、宿泊場所は高知大学の平岡先生が所有している元民宿を使わせていただいております。泊まりこみの調査というだけで一日中一緒にいるのに、なおかつ自炊までしてしまうのです！そのような生活をしていると大学では見えないものも見えてきます。



真剣に材料を吟味する大塚先生



帽子をかぶってニッコリの中谷先生

これを読んでいる人の中で、大塚先生と中谷先生が並んで料理をしている所を見た事がある人は何人いるでしょうか？室戸ではあのお二方が存分に腕をふるってくれます。無力な学生は食卓の準備と食器洗い専門です。大塚先生が魚を丸のままさばけることをご存知ですか？中谷先生の野菜炒めと玉子焼きが絶品であることをご存知ですか？正直な話、僕は3回生までも中谷先生を、いつもしかめっ面で不機嫌そうな兄ちゃん、くらいに思っていました。それが写真のようなお茶目さんだったりするのです。これが「現場でしか分からないこと」であると言わずして何と言いましよう。そこまで普段の姿を露わにしたお二人から、酒を飲みつつ様々な経験談や苦労話を聞きながら室戸の夜は更けていきます。特に意識はしていませんでしたが僕は着実に何かを学び取っていたようです。



ご存知！蘭萬の鯉のタタキ

4年間を振り返ってと題しましたが、結局話したのはほとんど4回生のこと、それも調査のことだけでした。それほど僕にとってはインパクトが強く、濃密な期間だったということです。

考えずに行動する人はおそらく、バカだと言われるでしょう。しかし、一年前の自分は考えすぎて行動しないバカでした。同じバカなら動かにか損だと、過去の自分に言っていたかと思いつつ、卒論を書く今日この頃です。

奥野先生との出会い

海洋システム工学分野 修士2年 中島 敦子

忘れもしない6年前の入試の日。

緊張している私たちに、「みなさん、頑張ってください!!」と優しい励まし声。試験時間の合間に入る、受験生をわくわくさせるスモールトーク。まさか、その先生に6年間もお世話になるとは、思ってもいませんでした。そう、私の入試試験監督は、なんと奥野先生だったのです。今思えば、縁があったからなのかと思います。

大学1回生の4月に、初めて由良湾の環境調査に参加しました。「誰か船に乗らない?」と言われて、私は真っ先に手を挙げて、奥野先生と一緒に船に乗りました。そのときに、停泊中の船のバルバスバウを指差して、「あれ何のためにあるかわかる?」と質問されたのを覚えています。奥野先生は、学生の好奇心をかきたて、あらゆるチャンスを与えてくれる先生です。知らないことばかりで、見るものすべてが、新しく、先生のお話に夢中になりました。

学部時代の授業では、フーリエ級数の話や、流体の可視化や、エントロピーのお話 etc. . . .

授業中には、先生のたくさんの引出しから、ありとあらゆる話の断片が飛び出します。続きが気になるので、授業が終わったら、女子みんなで、先生の部屋に押し寄せて、話を聞きに行ったりもしました。

私は、海洋環境について研究したいと思ったのと、奥野先生のお話をもっと聞きたいと思ったという漠然とした動機で、奥野研究室に入りました。まだまだ、そのころは未熟すぎました。学部時代に投げかけられた先生のお話の断片が、ようやく自分の中でつながって、学問って面白いなと思ったのは、研究室に入ってからのことです。

学生生活6年間の中で、一番自分にとって重要だったと思うのは、大学院での2年間です。この2年間で、今の自

分が作られたような気がします。

研究、学会、海洋調査を通して、問題解決までの考え方、総合的な物の見方を学び、さらに、人を引き付けるプレゼンテーションの仕方、話し方、英語のレッスン、論文の書き方、ビューティフルな数学についてなどなど. . . .

奥野研究室では、実に様々なことを学びました。また、研究を通して、議論して、何かに打ち込むことの楽しさを学びました。この2年間で、仕事をする上でも大切な、ベーシックな部分をきちんと学ぶことができたと思います。

特に、人を引き付けるプレゼンテーションの方法、国際学会での外国の方々との接し方などを教えていただいたことは、もともと人前に出て話すのが得意でない私が、もっと海外の人といろんな話できるようになりたいと思えるきっかけとなりました。みんなで、勉強会を開いたりして、研究室のみんなの英語学習にも熱が入りました。



2004年 国際学会 テクノオーシャンにて

特集：卒業

また、この2年間の中で、最も印象に残る出来事は、地球観測船「みらい」に乗船したことです。このチャンスを得ることができたのも、奥野先生のおかげであると思っています。今まで、受身で知識を得ることばかりで、どうも自分から積極的に動かないことが多かった私ですが、変化を求めていかなくては、自分に変化しなくてはと思える機会になりました。日常生活から離れて、長期間海の上で過ごしたことで、自分と向き合い、きちんと見つめ直すことができました。また、チームワークで、テキパキと海洋計測を行い、船員さんや研究員の方々との出会いなど、それまで、のんきな学生だった私にとって、とても刺激的な毎日で、貴重な経験となりました。私は、この経験を通して、以前よりは、成長できたように思います。

最後に、私にとって大きな意味をもつ、奥野先生のことについて書きたいと思います。

まず、ひとつめは、「I believe you!」です。お話の最後に、奥野先生は、ボーンと肩をたたいて、「I believe you!」とおっしゃります。この言葉を奥野先生に言われると、かなりのプレッシャーではありますが、妙にやる気が湧いてきて、何事も前向きに頑張ろうと思えます。何か落ち込んだとき、うまくいかないときに思い出したい、心強いことばです。

もうひとつは、「人を involve せよ、巻き込みなさい！」研究にせよ、仕事にせよ、他人を巻き込んで議論して、いろいろな情報を得て、進めなさいということです。これから、仕事をする上でも、周りの人とのつながり、周りを巻き込んで、情報を得て、仕事を進めていくことが必要であると感じています。これは、私がまだまだできていないことであり、自分が変わらないといけないなとつくづく感じています。これから、社会に出て、自分がどう変わっていきけるのかが、不安半分期待半分ですが、経験を積んで、できるようにしていきたいと思います。



奥野研究室 みんなでお食事

6年間を振り返って、この学科で6年間学ぶことができて本当によかったと思います。こんなに手厚い教育は、海洋システム工学科でこそ受けることができたのだらうと思います。

海洋システム工学科で奥野先生、中谷先生をはじめとする、たくさんの先生方、先輩方、仲間たち、多くの人にお世話になったことに心から感謝しています。私は海洋システム工学科の卒業生ですと胸を張って言えるよう、これから社会で活躍できる人になりたいと思います。



2006年卒業式にて 奥野研究室メンバー

求む志願者—AO 入試

大学 8 期 城野 隆史

まえおき:

2004 年の夏、奥野先生から AO 入試を手伝って欲しいので相談したいと突然メールが舞い込んだ。退職時(1998)、役職上関西造船協会の理事を務めていた関係で、退職後も引き続き造船 3 学会の統合へ向けての下地作りの役目に始まって、技術者資格や大学の技術者教育に関する学会の体制づくりなど、学会活動に係わってきた。その縁で奥野先生の目にとまったのであろう。もともと、退職時のモットーとして、頼まれたボランティア活動は、なんでも引き受けることにしていたから、結局 AO 入試の何たるかも判らぬまま、引き受けることになり、翌 2005 年の 6 月には「AO コーディネーター」という肩書きの委嘱状まで頂くことになった。

AO 入試とは:

AO (Admission Office) とは米国の大学における学生の

入退学を扱う部局の名称であって、米国ではどの大学も、優秀な志願者の勧誘や、落ちこぼれ学生の転学の世話など、入退学管理を行う独立した部局を備えている。このようなシステムに最初に目をつけたのが、慶応湘南校の学長である。ただし、彼の導入したのは、米国のシステム全体ではなく、やる気がある学生を一本釣りするところだけを組織的にやり始めたのである。一般入試によらない、面接を重視した独自の試験によって、やる気のある学生を選抜しようというのである。これが、成果を出し始めたということで、私立大学だけでなく国公立大学までもが追随し始めた。河合塾などの予備校もこれを取り上げるようになり、一般にもかなり流布するようになってきて、府立大学海洋システム学科でもよりよい学生を求めて、乗り遅れまいと挑戦することとなったのである。優秀な学生を集めることは、学科の存亡にもかかわる重要事項なのである。

区分 年度	国立大					公立大					私立大							
	大学数	学部数	志願者数	合格者数	倍率	入学者数	大学数	学部数	志願者数	合格者数	倍率	入学者数	大学数	学部数	志願者数	合格者数	倍率	入学者数
2000 年度	3	8	1,289	319	4.0	318	1	4	188	26	7.2	26	71	148	15,017	8,496	1.8	7,773
2001 年度	5	23	2,036	521	3.9	521	3	6	289	57	5.1	57	199	369	25,948	15,944	1.6	15,308
2002 年度	12	51	3,777	983	3.8	978	4	7	329	49	6.7	49	270	504	35,586	21,219	1.7	20,460
2003 年度	17	66	5,017	1,214	4.1	1,201	4	7	251	54	4.6	53	316	612	41,624	24,801	1.7	23,956
2004 年度	22	75	5,036	1,277	3.9	1,270	7	11	507	94	5.4	93	346	716	51,816	29,018	1.8	27,624
2005 年度	25	82	5,584	1,475	3.8	1,467	12	18	1,027	227	4.5	226	364	788	62,604	33,011	1.9	31,373
2006 年度	30	93	7,752	2,108	3.7	2,098	15	28	1,410	323	4.4	320	380	833	65,667	34,838	1.9	32,971

AO入試実施大学数 推移(文部科学省発表)

文科省も定員の5割までは AO 入試での入学を認めており、国公立の3割、私立の6割以上の大学が、AO入試を採用しているといわれている。新聞報道によれば2007年度には、35国立大学の105学科でAO入試実施の予定という。

コーディネーターの仕事:

これまでの偏差値を尺度とする固定的な入試制度では大学評価も固定的になる。これまでの選別的な入試制度では、受験生が定員を満たしているかぎり、成績の上から順に入学を認めればよいので、優秀な学生を集めるための大学側の能動的行為と言えば、試験期日、試験科目やセンター試験成績の算入率の設定くらいしかなかった。大学の特徴を出す余地はあまりない。要するに待ちの姿勢しかとれなかったといつてよい。この延長で、AO入試においても「学科試験なし」という条件につられて応募する生徒は苦労しなくても集まると高をくくとすれば、大きな誤算を生ずる。府立大学の世間の一般的評価からすれば、応募者はあるであろうが、よい学生を集められるかどうかは疑わしい。入試が待ち(選抜試験)から攻め(1本釣り)に変化した。AO入試を多くの大学が実施し始めると、それは大学側が選ばれる立場に立つこと、地位の逆転を意味する。受験生は顧客であって、顧客が利益を感じなければ応募するはずがない。

そこで、コーディネーターの第1の仕事は、高等学校を巡って府立大学の宣伝をすることである。アドミッション・ポリシーと学科紹介を記載したチラシを持って主に大阪府下の高校を中心に説明に歩いた。ペーパーテストは苦手でも「磨けばひかる原石」求むという趣旨を訴えるわけである。高校訪問の他に各種の説明会を開催し、その対応者になることもある。2番目の仕事は、試験の立ち会いと改善策の進言。3番目は、9月には合格が決まってから入学までの半年間をブラブラ過ごされたのでは困るので、この間に彼等のモチベーションを高め、基礎学力をつけるための入学

前教育である。最後に、入学後のフォローアップがある。一般入試で合格した他の学生と遜色ないか、いい影響を与えているかなどである。

先生方にとっても、勿論私にとっても初めての経験であり、手探りで進めるわけだが、やればやるほど新しい課題が見えてきて大変な労力である。先生方は忙しい方ばかりなので、コーディネーターとしては、少しでも助けになりたいと願っている。

高等学校の反応:

AO入試という言葉は関係者には膾炙しているが、試験の方法や考え方は、大学によってバラツキがあるので、実態は言葉だけから予想つけがたいところがある。特に、受験生の減少傾向に歯止めをかけるための学生の青田刈りと受け取られることが多い。府立大学のAO入試は8月に行い、定員の1割程度(3名、H19年度からは4名に増員予定)のモチベーションの高い生徒を選抜するもので、決して学生数確保のための青田刈りではないことは理解して頂けるのではあるが、高校側の反応は、おおよそ次のような点である。

まず、AO入試のような試みは、これから受験に向けて拍車をかけようというまさにこの時期、正規の授業計画の雑音になるので、歓迎できないというものである。面と向かってこのように主張される高校は、少数であるが、8月は早すぎるという意見は、多くの学校で聞かれる。この時点では、生徒達の志望大学はまだ決まっていない。9月以降の追い込みで急激に力がつくので、志望校を絞り込むのは、その次であるというのである。その辺の事情も考慮して、たとえ失敗しても9月以降一般入試に向けた受験に再チャレンジする機会を与えられるように試験日を8月に設定しているし、AO試験は、多面的に受験者の意欲や基礎能力を観るので、そもそも「傾向と対策」の立てられないことを特徴とするものであるから、特別な準備は不用である。道場破りの気分で

気軽に受験をトライするよう生徒の背中を一押しして欲しいと、こちらはお願ひするのである。

主に進路指導部の先生と校長先生にお話するのであるが、何度も足を運ぶうちに、府立大学側の真意を理解して前向きに受け止めて頂けるようになってはきた。しかし、先生方は、府立大学の意図は理解するが、当校にそのような人材がいるだろうかと内心感じておられるのではないかと勘ぐる。志望校の決定は生徒の自由意志でなされるべきで、先生が口出しすべき筋合いでないかもしれないが、その自由意志がどこまで育っているのだろうかという点が気掛かりなのである。最近、高校でもキャリア形成に備えた自覚を育てるための対策も講じられるようになってきたとも聞くが、なかなか目的意識を持ち、主体的な学習態度の身に付いた生徒を見だし、府立大学に誘うことは、簡単ではない。東京大学までもが大学説明会で全国行脚する時代である。ひたすら受験テクニックを磨くことに終始してきた生徒では、社会に役立つ人材の育成を求められる大学側も困難を来している証左であろうと思われる。

求む人材:

単に高校訪問だけでなく、オープンキャンパス、ホームページの充実、AO 説明会、個別相談会など、生徒個人に直接情報を伝えるための方策も積極的に実施しているが、当初予想していたようには、志願者が集まらない。初年度の平成 17 年と 18 年の海洋システム学科への志願者は、それぞれ 8 名、7 名で倍率は、3 倍に達しない。しかし、直接の PR を行っていない福岡、愛媛、三重、和歌山などの遠隔地からの志願者があるのは心強い。少ない志願者数にもかかわらず、合格した 3 名は優秀な生徒で、一般試験での入学者に遜色ないトップクラスの成績を収めているし、H18 年度合格者もそれを予感させるものがある。それに味をしめて、H19 年度からは定員を 4 名に増加する予定であるが、それにしても志願者数が 3 倍をきるのには、心もとない。締め切り

近くになってようやく志願者が出てくるのであるが、それまでは薄氷を踏む思いである。少なくとも 3 倍以上の志願者は欲しい。

埋もれた人材を求めて、これからも努力するつもりであるが、同窓諸兄のご支援を切に期待する。という理由は、志願者に聞くとホームページを見て関心を持ったとか、身近の府大の卒業生に感化を受けたとかいうものが多いためである。残念ながら先生の薦めというの一人もいない。先輩の大学に対する誇りが最も影響力が強いように思われる。

同窓諸兄の多くは、長らく大学を訪問されていない方も多と思われる。私が卒業した 1960 年当時のバラック校舎とは様変わりし、広い敷地に緑多く、学生も元気である。手入の行き届いていないところが見受けられるのは残念であるが、学生と先生の距離も近く、卒論発表会でも、学生は精魂込めて研究発表をしている。卒業生の社会からの評価も高いと、いささか身びいきかもしれないが、大いに自負している。学歴社会から実力社会への転換は、確実に進行しているようである。大阪府立大学発展の好機と言える。

教育問題は奥深い。経験を重ねるほどに、新たな問題を発見する。それにしても今の一般入試システムは、本当に基礎学力を育てているのであろうか、付け焼き刃の受験テクニックを磨いているだけではないかと疑問に感じると同時に、生徒にしても、あまりに考え方が功利的で、学問の面白さと奥深さを知らず、かえって自らの可能性を閉ざしているのではないかと懸念するこの頃である。

機会があればまた報告をしたい。同窓諸氏のご声援を再度お願いします。

終わり

大阪府立大学工学部の新しい入試—AO 入試

正岡 孝治 (海洋利用システム講座)

いつもは、大学にはOBの方々から会社からいらっしゃって、「いい学生さんがいたら、ぜひわが社を紹介してください。」と言われるのですが、今回は大学側から「いい高校生がいたら、ぜひ、大阪府立大学海洋システム工学科へのAO入試をすすめてください。」というお願いです。

最近、学力低下問題やいじめの問題など、教育のあり方が毎日のように取りざたされています。大阪府立大学に入学することを考えているくらい的高校生は世の中の学力低下問題とは関係なしに、学力向上のために十分な対策はしているはずですが、ただし、それは、多くの場合、大学に合格するために受験業者が作成した受験テクニックの習得に過ぎないのではないのでしょうか。

高校生が基礎学力を高めるために、大学合格を目標にすることはひとつの方法ではあると思います。しかし、大学合格のための最適化カリキュラムを、例えば、高校が考えるとしたら、それは、教育システムとしては歪んでいるといえるでしょう。大学合格という目標がいびつ化すると、今度は、なるべく偏差値の高い大学に合格することが高校生の学習目標になってしまいます。

そのようになると、受験生にとっては大学で何を研究したいかなどは二の次になり、なるべく多くの人にとって入学しにくい大学に自分が入学することが目標となってしまいます。高い受験テクニックを持った学生がそのプライドを満足するために高い受験テクニックでしか入学できない難関学部をめざすとしたら、これは馬鹿げたことです。

高校生は自分の実力よりも高い目標点を定めて受験勉強をしますから、ほとんどすべての人は目標とする大学に合格することはできません。多少の運不運はあるにせよ、結果として、海洋システム工学科には、海洋システム工学科に合格できる受験テクニックを持った学生が集まってきます。本当は、海洋システム工学科には海洋システム工学を学びたい学生が集まるべきです。

海洋システム工学科に海洋システム工学を学びたい学生を集めるひとつの方法が、今回皆さんに知ってもらいたい、AO入試(エーオー入試、アドミッションオフィス入試)です。AO入試は従来の推薦入試と少し似ています。AO入試を手取り早く理解していただくために、表1を使って、会社に就職する場合と大学に入学する場合を比較してみます。

表1. 企業と大学の選抜方法の比較

	企業採用	大学入試
選抜方法1	筆記	一般選抜(筆記)
選抜方法2	学校推薦 主任教授が推薦	推薦入試 高校校長が推薦
選抜方法3	自由応募 推薦状は不必要	AO入試 推薦状は不必要

多くの人が経験した大学入試は、筆記試験による入学です(表1の選抜方法1)。高校の校長先生から推薦状いただいて、推薦入試により大学入学を決めた方も何人かはいと思います(表1の選抜方法2)。推薦入試は就職活動で言えば学校推薦のようなものだと思います。AO入試は入試の方法は推薦入試に似ていますが、受験生の人物を評価するのは大学側です。大阪府立大学のAO入試の場合、入学を希望する受験生は、高校の校長先生の推薦状は必要ありませんし、現役の高校生でなくても受験できます。AO入試では、海洋システム工学科の場合、夏休みに3日間、体験講義、体験演習、体験実験等を行い、筆記答案、レポート、口頭発表・討論などのより、大学の授業をこなす能力について個々の受験生をチェックします。

平成20年度、海洋システム工学科では、4名をAO入試から選抜することにしています。全入学者のうち約16パーセントはAO入試から募集することを考えています。7月に募集を行い、8月に1次試験と2次試験あわせて3日間試験を行い、9月に合格が決定します。入学を決めた合格者に対しては10月から3月までは入学前教育を行います。

表2.
大阪府立大学工学部海洋システム工学科AO入学試験

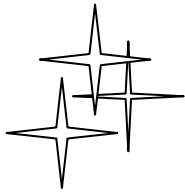
定員	4名
願書提出	7月
試験	8月
合格発表	9月
入学前教育	10月～3月
入学	4月

入学試験時には大学での講義についていける基礎力を有しているかどうかを十分検査します。問題に取り組む際に、考え方が前向きであるかなども重要な項目です。受験生の中にはスポーツやコンクールで全国大会に出場したこと等を、面接等で強調される方がいますが、その事実は参考資料であり合格基準ではありません。あくまでも、海洋システム工学科の教育カリキュラムについてくるだけの基礎学力や人間性を有していることが採用の基準です。

よく、「大阪府立大学は敷居が高い」とおっしゃる高校の先生やご父兄がいらっしゃいますが、今回のAO入試は校長先生の推薦状が必要ないという点で、誰でも受けられる試験です。他の大学と試験日が重なることもないので、受験のチャンスが増えると考えればよいと思います。「海洋システム工学」に興味がある高校生あるいは浪人生は、大学はどんなところかを体験するために、特別に受験勉強をせずに、AO入試を受けてみればよいと思います。AO入試に合格した学生の言うには、「たとえ落ちたとしても受験してよかったと思う。あの緊張感を体験しておけば、一般入試受験の際、気分が余裕が出来る」と。

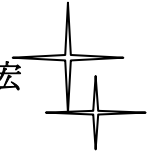
海洋システム工学科(船舶工学科)を卒業した皆さんのまわりを見わたしてみても自分に似た大学受験生がいたら、ぜひ、大阪府立大学工学部海洋システム工学科のAO入試を薦めてください。「7月にAO入試の願書を提出するように」と。





オルガン・めだか・針穴写真

大学7期 山岡 元宏



狭い部屋いっぱい、三台の大きな足踏み式リードオルガンが並ぶ。明治時代後半生まれの石原オルガンは両袖にランプ台が付いていて、油汚れや焦げ跡がある。電灯の普及してない頃、石油ランプの灯りで、このオルガンを弾いていたのは、どんな人だったのだろう。

二番手の明治四十二年製のヤマハオルガンは当時の型録によると「六十一鍵、四個ストップ付き、定価金六十八円」とある。百年ちかく経っていても状態が良いので、良家に使われていたらしい。お金持ちのお嬢様が、海老茶か紫の袴姿で、オルガンに向っている様子を想像するのも楽しい。

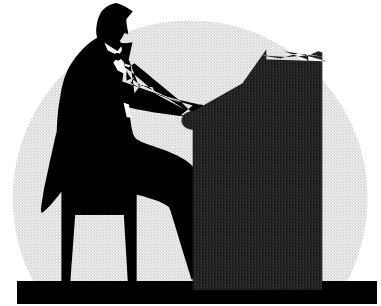
最後の一台はヤマハ5型。教会で使っていたものの下取品をゆずり受けた。ヤマハの修理調律担当者は「この多機能の5型が欲しい、こんなに保存の良い5型は見たことがない」と言って撫でるような仕草をする。取扱説明書の正誤表には「日本楽器→ヤマハ」とある。この社名変更は1987年だから、この頃の製品である。

足踏み式リードオルガンは、すっかり姿を消してしまった。国内には、もはやメーカーは無く、いまや製造しているのは、イタリアに一社あるのみとか。でもそのオルガンはベニヤ板かハードボードの箱みたいで何の趣きもない。

オルガンというとエレクトーンやキーボードを思い浮かべる人が多く、足踏み式リードオルガンなど聞いたこともなく見たこともないとおっしゃる。

肝心の演奏の方は自学自習なので「みどりのそよ風」「牧場はみどり」などしか弾けなかったが、去年七月から毎日文

化ホール「弾いて楽しむオルガン教室」に通うことにした。先生ふたり、生徒八人で、隔週、自分の持ち歌ならぬ「持ち曲」を発表しなければならない。おかげで「サウンドオブミュージック」「フニクリフニクラ」など、いくつかの曲を楽しめるようになった。



東京の田口教育研究所は、メダカの産卵孵化時の酸素消費量を測定する実験を行っていた。この時に産まれた卵と仔魚を頒布するという新聞記事を見て早速申し込む。水の入ったビニール袋が宅急便で送られて来た。卵は見えるが仔魚は肉眼では視認できない。庭に置いてある祖父伝来の直径六十センチ、深さ三十センチの瀬戸物の金魚鉢に卵と仔魚を放り込んだ。卵は孵化しメダカは成長、次々と増殖し越冬し、翌春には泳ぎ出し、また殖える。水草(アナカリスか?)も繁茂し、卵をぶら下げたメダカは、藻にお腹を

こすりつけ卵を産み落とす。五年か六年の間に、陶器の飼育鉢は十三鉢になり、他にポリバケツ大小、プラスチックの漬物樽大小も援用。

梅雨まえにアナカリスは白い小さい四弁の花をたくさん水面上に、もたげて咲かせる。この花時がメダカの産卵期である。三月から十一月までの間、朝昼夕のメダカ一族への挨拶と餌やりを続けている。屋外飼育なので、ヒーター、ポンプや蛍光灯も不要、エサ代は年間四百円。

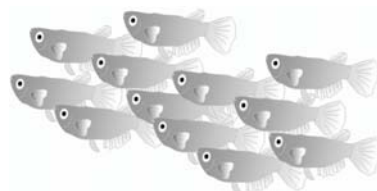
メダカを欲しいと言う人が居るが断る。冬に氷が張りそうだから、お湯を入れた、室内で飼ったが、夏に暑そうだから氷を入れてやったと言うからだ。なお朱色の緋メダカを店で売っているが、普通の黒いメダカと一緒にすると交雑して、朱と黒のモザイクが産まれるので注意しなければならない。

一昨年、日本針穴写真協会(JPPS)が発足。初年度は入会金不要だし、針穴という響きに童心をくすぐられ入会。最初は靴を入れるボール紙の箱で針穴写真機を作ることを教わり、撮影した写真を共同展示。先輩・友人に見てもらい、励ましの言葉をいただく。東京でのワークショップにも毎回参加し、ブローニーのフィルムを使うカメラ、4 インチ×5 インチのカットフィルムを使うカメラを製作した。JPPSの中島正己さんの周到な準備と懇切な指導に感謝。東京目黒の自然教育園、大阪城公園や京都南禅寺の撮影会に参加した。針穴直径 0.23 ミリ、針穴を開けた銅箔は厚さ 0.01 ミリ。シャープな写真が出来上がるので、展示会に出したり、励ましをいただいた方々にお見せする。「よく写ってるけど、普通の写真と何が違うんだ」とすごまれてタジタジ。針穴のベテランに相談すると「レンズが無くて、これだけ写るのが針穴写真じゃ！と言うたれ」と。そのあと小声で「風にそよぐ樹木、動いてる人やモノを取り入れて静と動を同時表現できれば」

と言ってくれた。フィルムや現像・引伸に費用が掛かるが、出来上がるまで、どんな写真になるか判らないところが、デジカメなどでは得られない針穴写真の醍醐味である。

昨年八月、東京の江東区文化センターで日本針穴写真協会会員展が開かれた。大作？を四点出展したが、多くの知人・親戚が見に来てくれて、たいへんうれしかった。

ちなみに会員は全国で 380 名である。



足踏み式リードオルガン、メダカの飼育増殖、針穴写真機による撮影は、くるま無し、携帯なし、パソコンなしの三無主義の筆者にはピッタリの遊びである。シヤケド、このような楽しみかたは、スローライフどころか、きわめて忙しい生活を迫られ、ビジイライフになる。まかり間違っても真似をされないように切望する。

(おわり)

本稿は『ガリ版の灯を守る会』15周年記念誌、『私、スロー人』(2006年12月発行)に採録されたものに、加筆改訂したものである。

至誠寮 同窓会報告〔第3回〕

大学6期 杭田 嘉夫

旧制高校とは

我々の大学は新制大学と言います。昭和24年から始まって居り、それ以前は旧制の教育制度によって運営されました。新旧両教育制度の区割りは下記のようになっています。

	小学校	中学校	高等学校	大学	備考
旧制教育制度	6年	5年	3年	2年	男女 別学
新制教育制度	6年	3年	3年	教育課程2年 専門2年	男女 共学

ここで取り上げますのは、大学進学を目的とした今日で言えば普通科高等学校に相当する学校で教育改革運動を実践している高校です。新制教育制度では、高校の3年生と大学の教養課程の2年間で併せた3年間に相当します。何故旧制高校なのか？これは長く成りますので連載で書きたいと思いますが旧制高校は、少数精鋭の教育(1学年200名程度)で学校数も少なく、明治維新後政府が西洋の文化科学の吸収と国家の柱石となる人材の養成を目指して高等教育の中核として、今日欠落している人間形成の教育を全寮制と生徒の自治による実践で行いここから大臣、総理大臣、財界、政界、教育、文化各界の指導者を輩出し日本の近代化を達成した実績に有ります。

旧制高校は3年制と7年制と大学予科から成り、呼称から数字を冠した(ナンバースクール)と地名を冠した(ネーミングスクール)に分けられます。大学予科は、旧制帝国大学に併設された高等学校です。寮歌祭主力校の公立及び私立校も掲載します。

ナンバースクール

学校名	略称	所在地	設立	学生寮名	同略称
第一高等学校	一高	東京都	明治27年	自治寮	北, 中, 南寮
第二高等学校	二高	仙台市	明治27年	明善寮	
第三高等学校	三高	京都市	明治27年	自由寮	吉田寮
第四高等学校	四高	金沢市	明治27年	時習寮	北, 中, 南
第五高等学校	五高	熊本市	明治27年	習学寮	
第六高等学校	六高	岡山市	明治33年	六稜寮	北, 中, 南
第七高等学校	七高	鹿児島市	明治34年		東, 西, 南
第八高等学校	八高	名古屋市	明治41年	瑞寮	

1. 故赤崎先生は、七高出身です。正式な学校名は第七高等学校造士館と言います。
2. 六高からは大臣が五人出ており内閣総理大臣安倍晋三さんのお父さんは中寮の幹事(寮長)で総理大臣目前急死された。105周年記念祭では祝電をおくられました。

ネーミングスクール

弘前高等学校	大正9年	北冥寮	松江高等学校	大正9年	自習寮
山形高等学校	大正9年	ふすま寮	広島高等学校	大正9年	薫風寮
水戸高等学校	大正9年	暁鐘寮	山口高等学校	大正8年	鴻南寮
浦和高等学校	大正10年	武原寮	松山高等学校	大正8年	三光寮
新潟高等学校	大正8年	六花寮	高知高等学校	大正11年	南冥寮
松本高等学校	大正8年	思誠寮	佐賀高等学校	大正9年	不知火寮
静岡高等学校	大正11年	仰秀寮	福岡高等学校	大正10年	学而寮
大阪高等学校	大正10年	凶南寮	旅順高等学校	昭和15年	向陽寮
姫路高等学校	大正12年	白陵寮			

7年制 官立高

	設立	学生寮名	備考
東京高等学校 台北高等学校 学習院高等学校 富山高等学校	大正10年 大正11年 明治10年 大正12年	大成寮 七星寮 昭和寮 青冥寮	明治17年に官立となる。 馬場はるさんが寄付富山県立高校昭和18年官立となる

7年制 公立高

浪速高等学校 府立高等学校	大正15年 大正4年	寮なし 八雲寮	大阪府立 豊中市 東京府立 東京都
------------------	---------------	------------	----------------------

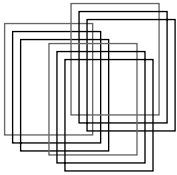
7年制 私立高

武蔵高等学校 甲南高等学校 成蹊高等学校 成城高等学校	大正11年 大正12年 大正14年 大正15年	双桂, 愛日寮 寮なし 明正学寮 三友学寮	東京都練馬区 神戸市 武蔵野市 東京都世田谷区
--------------------------------------	----------------------------------	--------------------------------	----------------------------------

官立大学予科

北海道帝国大学予科 京城帝国大学予科 台北帝国大学予科 旅順工科大学予科 東京商科大学予科 大阪商科大学予科 神戸商科大学予科 京都府立医科大学予科 神宮皇学館大學予科	大正7年 大正13年 大正16年 大正12年 大正9年 昭和3年 昭和15年 大正10年 明治15年	恵迪寮 進修寮 不鳴, 宮前寮 興亜寮 一橋寮 寮なし 思誠寮 橘井寮 精華寮	札幌市 韓国 台湾 満州旧関東州 東京都小平市 大阪市立 大阪市 神戸市 京都府立 京都市 伊勢市
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------

(注) 旧制高校はこの他に高等工業, 経済, 農業, 医専, 高等商船, 高等師範(男女), 陸軍士官学校, 海軍兵学校等がある。



海洋地球観測船「みらい」に乗船して

博士前期課程 吉村 明子



2006年10月16日から11月27日までの43日間、JAMSTEC(海洋研究開発機構)の持つ世界最大の観測船である「みらい」に乗船し、インド洋上で海洋観測を行ってきました。この観測船「みらい」のことは、奥野研究室の一員になってから知ったのですが、初めて話を聞いたとき、たった一隻の船で大海原の観測を行うなんてことは全く想像が付きませんでした。しかし、一昨年の夏にもあった太平洋で観測に乗船された先輩の話を知っていると、すごく面白そうで、チャンスがあるなら絶対乗ってみたい!とっていました。そして今回、インド洋で定点観測があることを知り、乗れたらいいなあと思うしていました。それなので、4月頃に「みらい」に乗船できると決まったときはすごく嬉しかったです。

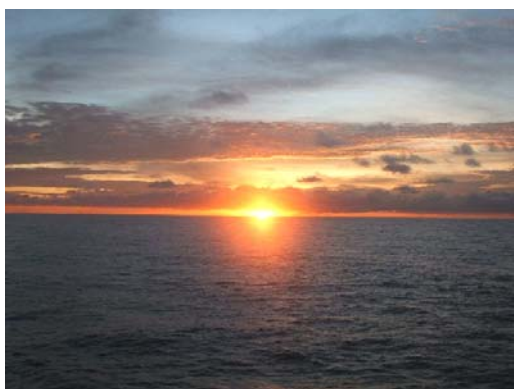
今回の観測航海は、シンガポールで乗船、インド洋に向かって航行し、東経80度の赤道上で約1ヶ月間の定点観測、モルディブで下船するという長旅でした。こんなに長期間、船に乗るのは初めてだったので、不安もありましたが、それ以上に、どんな経験ができるのだろうかという期待の方が何倍もありました。「みらい」は1万トン未満の船…そんなに大きくはないのですが、シンガポールで初めて目にした時、普通のタンカーや客船とは異なり、真っ白な船体、大きなクレーンやドップラーレーダーなど見たこともないような装置をつけた姿に圧倒されました。これからしばらくはこの船の中だけで生活する…まだまだ実感はわかかなかったです。この船なら安心して生活できそうだと感じました。着岸が完了すると、やっと乗船です。大きなトランクを持って、船外の階段を上って初めて「みらい」に足を踏み入れたとき、第一印象は意外と中は狭く、圧迫感があると感じました。廊下の幅

も狭く、天井も低い…しかも船内の階段の狭く、かなり急で、荷物を持って降りるのは大変でした。しかも、船内はまるで迷路のようで、自分の部屋に行くのも一苦勞…。この先の生活に早速不安を感じてしまいました。そして、陸にしばらくの別れを告げ、乗船翌日の早朝にシンガポールを出発しました。

シンガポールを出港して2日間は、海賊が出るというマラッカ海峡を通過、危険な海域であるという理由で全く外に出ることができませんでした。部屋にも窓がなく、朝なのか夜なのかわからず、すぐ慣れるだろうと思っていましたがさすがに気が滅入りそうになってしまいました。気晴らしに船内を歩いていると、自分の部屋への戻り方がわからない…なんてこともありました。マラッカ海峡を抜けて、やっとデッキに出られると思ったとたん、急に船が揺れだしました。きっと外洋に出たからでしょうが、私を含めて初乗船の人は船酔いでみんなダウンです。有義波高が2mくらい…船に乗り慣れている方は「こんなの揺れてないよ!」と平気な顔をしていましたが、揺れてないところに逃げられないという状況はかなり辛かったです。幸い私は、半日寝ていたら回復し、普通に作業ができるようになりましたが、ひどい人は1週間以上寝込んでしまうほどで、この船の揺れに慣れることが第一関門なんだと痛感しました。

色々大変なことが多い船内生活だったのですが、地上での生活とはまったくと言っていいほどかけ離れていました。インド洋…大海原の真ん中で周りには海と空だけ。もちろんテレビは映りません。インターネットもつながらず、メ

ールは衛星を経由して通信をするので1時間に1回送受信をするだけです。(これでもましになったそうですが…)電話もあるのですが、1分間で…何百円というレベル…とても学生の私には使用する気にはなれないものでした。ということはつまり、情報源が全くと言って良いほどないのです。あると言えば毎日届く1枚ものの FAX 新聞と、知人がメールで送ってくれる情報のみです。そんな状況で初めはやっていけるのだろうか、退屈するのではないかと、思っていました。しかし、実際に船に乗ってみると、そう感じたことは一度もありませんでした。船内には、本、DVDやビデオといった娯楽品も結構揃っていて、たまに DVD 鑑賞をすることもあったのですが、私にとって何よりも楽しかったのが、自然の風景を眺めることでした。朝日、夕日、海、雲、星…と毎日、姿を変える様子はすごく面白かったです。例えば夕日ならば、夕方5時半頃が日入りの時刻だったのですが、船で知り合った他の研究者や学生と「今日は夕日見られるかな?」と言いながら、日入りの時間になると船尾のところまで夕日を眺めるのが日課になっていました。当然、天気がいい日ばかりではなく、日中に天気がよくても、夕方になると雲が多くなってしまい水平線に沈む夕日をきれいに見ることができたのは乗船中に1度しかありませんでした。それでも、研究者



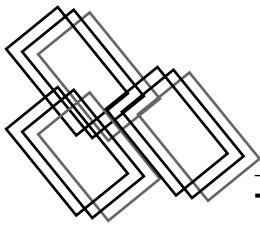
水平線に沈む夕日

も学生と一緒に、夕日が沈むのをただじっと待つなんてことは日本で生活していると絶対ありえないことです。研究者の方と夕日を待っている間などに色々な話をできたことも、私にとってはすごく楽しかったです。きっと地上にいたら、こんな余裕はなく、毎日があつという間に過ぎていってらんだらと思う、すごく貴重な経験ができたなあと思っています。



積乱雲

船に乗って改めて気付いたのが、自然というのはこんなに面白いのだ、ということでした。海の上でめったに見ることができない景色に出会い、こんな景色が日々繰り返されているという自然の壮大さを感じ取ることができ、すっかり船での観測の魅力にとりつかれてしまいました。このような一生に一度しかないような経験ができて、本当によかったと思っています。これも、43日間という長い航海の間、メールで応援のメッセージを送ってくくださった先生、先輩、研究室の方々、友達、家族などの多くの人の支えがあったからだと思っています。そして、何よりも、この長い航海と一緒に過ごした先生と先輩にはたくさん助けていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



VLCC に初乗船して



海洋システム工学科 4 回生
佐地 健太郎

2006/12/14～12/21 にかけて、株式会社川崎造船の VLCC (Very Large Crude-oil Carrier) 試験運転に乗船する機会を頂きました。私は海洋システム工学科に所属するものの、いままで船に乗った経験がほとんどなく、ましてや造船会社に就職しても乗る機会が限られているという VLCC の試験航海に、研究のためとはいえ乗船できるということで、乗船前から期待で一杯でした。

最初に VLCC が見えたのは、川崎造船の坂出工場に向かう車の中でした。車中にも関わらず「むっちゃ大きい、戦艦みたいでむっちゃカッコいい。」と思わずはしゃいでしまいました。それもそのはずで、この VLCC の大きさは、全長 333m、型深は 29m で、巨大な建築物が海に浮かんでいるようなものです。実際に現地に到着して、近くから見上げた時は、あまりの大きさに驚きました。日頃の勉強を失念して、これほど巨大な鉄の塊が何故浮くのかと思った程です。運航中も、明石海峡大橋を通過する際は、ぶつかるのではないかと不安になる程すぐ真上に橋がありました。それほど VLCC は大きく、乗船中は何度もそのことに驚かされました。



悠然と進む VLCC

文頭に書きました通り、この航海は 1 週間でした。これほど長い間陸を離れたのは、初めての機会です。初めは生活に少し戸惑いましたが、ひどく酔うこともなく快適に過ごせました。ただ、微小な揺れのためか、1 日中眠たかったです。船上の生活で一番嬉しかったのは食事です。日ごろの生活では、一人暮らしということもあり、それ程豊かな食生活を送っていないのですが、船上は違いました。朝昼晩の 3 食全ての食事は量が多く、味もなかなかでした。その夕食にはビールがついてきます。お酒好きの私には、至れり尽くせりの待遇に、本当に感謝しています。ただ、最終日の食事は残った食材が全て出されるので、もの凄い豪勢になるか、質素になるかはその航海次第と聞いていたため、非常に楽しみにしていたのですが、残念なことに質素な食事でした。それでも、日ごろ食べているものよりも良かったのですが、1 週間の船食に慣れていたために、1 週間の航海の中で 1 番の衝撃でした。



明石大橋を通過する VLCC

ここまで、船が大きかったこと、満足な食事についてしか書いていませんので、少し今回の試験航海について触れます。試験航海はその名の通り、船の試験です。大量生産される自動車と違い、船というのは1隻ずつ設計を行い、それを基に作り上げていきます。ですから、本当にコンセプト通りに設計されているのかどうか、その通りに動くのかということを確認しなければなりません。船の性能を確認するので、船を作る工程で最も不安なものだと思っていたのですが、どの人を見ても自信に満ち溢れた顔をしていました。恐らくですが、自分がこの大きな船を作ったのだという気概の表れではないかと思いました。この気概を持つことこそ造船業の最大の魅力ではないかと、学生ながら感じました。

今回の試験はどれも造船業に携わらなければ見られないものばかりですが、私は特別に見学する許可を頂きました。試験中のコンパスデッキには終始緊迫した空気が漂い、見学しているだけでも関わらず、大変緊張しました。日頃の学生生活では、まず感じることもない緊張感で、これだけでも貴重な経験になりました。それらの試験の中でも印象に残っているのが、旋回試験、クラッシュアスターン(Crush Astern)試験の2つです。

旋回試験ですが、これはその名の通り船の旋回性能を検査する試験で、最大限舵をきり、旋回半径がどれほどになるのかを確認するものです。コンパスデッキからウイングに出て見学していたのですが、船の引き波は綺麗に弧を描いており、思わず「おー。」と感嘆の声を漏らしていました。この試験中に印象深かったのは両舷の波の違いです。左旋回中では、左舷部の波は船に吸い込まれるように波ができ、右舷側では押し出されるように波が生じていました。感覚的には逆になるような気がし、食い入るように海面を見つめていました。研究室で勉強しているだけでは、気付くことのない波の動きに非常に感動しました。

次にクラッシュアスターン試験ですが、これは前進全速で航行中に後進全速に切り替え、その衝撃に耐えられるかどうかを確認する試験です。このような無理な操作は、通常

運行ではまず行われることがなく、この時のVLCCには一生に一度だけのものすごい負荷がかかるそうです。そして、この試験はエンジンルームで見学させて頂きました。逆進をかけた瞬間にエンジンルームにはすさまじい音が轟き、部屋全体が軋んでいる様でした。船全体が激しく揺れ、「へー、これがこの船の一生のうちで最大の衝撃か。」と深く感じ入ってしまいました。大変揺れましたが、当然船に損傷はなく、無事この試験も終わりました。

今回の乗船は、普通では経験できない様な試験ばかりで、何を見ても興味深く、終始感動していました。感動するだけではなく、学校の授業だけでは絶対に得られない知識も沢山得ることができました。その中でも船体運動がもっとも印象に残っています。今まで船に乗り、揺れを感じることはあっても、船体運動まで考えたことはありませんでした。しかし、VLCCでは、コンパスデッキに立ち、フォアマストと水平線の間を見ていけば、ピッチングの強さと周期が凡そですが分かりました。一方ウイングの動きを見れば、ピッチング同様にローリングも分かります。今まで知識だけで、乗船中に船体運動について考えたことがなかっただけに、驚かされると共に、考えの至らなかつた自分が少し恥ずかしかったです。他にも書ききれないほど、感動したり驚いたりしたことがありましたが、これくらいおこします。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて頂いた株式会社川崎造船、並びに乗船中に大変御迷惑をおかけしました基本設計部の岩崎さん、濱野さんには深く感謝を致します。



船橋から見えるVLCC

オンライン振り込みの試行開始について

会計理事 山田智貴(大学 37 期)

会費納入率の向上, 納付の省力化の一案としてオンラインでの口座振り込みを提案していましたが, このたび事務局では銀行口座を開設いたしました。振り込み手数料が安価な銀行をご利用の方*, 郵便局の利用は難しいがインターネット, 携帯電話等を利用した送金が可能な口座をお持ちの方に特にご利用をお願いします。

口座開設にあたっては, 事務局の至近にATMがあること, 本支店間の口座からの振り込み手数料が無料であることから, りそな銀行とさせていただきます。口座番号等は次の通りです。

りそな銀行 深井支店 普通口座 0060109

本格的な利用までには検討すべきことはあろうかと思いますが, ご意見, ご質問等ございましたらよろしくお願い致します。まずは, 手数料節減効果の大きい方, 郵便局の利用が難しい方から下記の“お願いとご注意”に従ってお試しいただきたいと思います。

手数料節減効果の大きい例

インターネット利用の場合

1. りそな銀行オンライン口座(りそなダイレクト)から振り込み 0円
2. 新生銀行口座(新生パワーダイレクト)から振り込み(条件付) 0円

ATM(自動現金預け払い機)利用

3. りそな銀行キャッシュカードを使い ATM から振り込み 0円
4. 郵便局の預金口座から ATM を利用 60円

りそな銀行に口座をお持ちの方には特にご利用をお願いしたいと思います。

お願いとご注意

1. 振り込み金額は会費(平成18年度現在 年額2000円)とし、手数料はこの中に含むこととします。(その際こちらには(会費一手数料)分が振り込まれます)
<以前よりまれに手数料別で送金していただくことがあります、大歓迎です。>
2. 送金後、事務局宛に電子メール等で「x月x日 xxxx年卒 XXXX(氏名)xx年度会費 xx銀行から振り込み」といった連絡をお願いいたします。
3. また、万一の事故等に備え、送金の記録を保存をお願いいたします。こちらからは特に領収書は発行致しません。
4. 会員本人と異なる名義の口座から送金される場合は、その名義(カタカナ)もお願いいたします。

* 送金に関する手数料

従来、会費の送金には郵便振替がもっとも安価(60円)でしたが、窓口からの郵便振替手数が件60円から100円に値上げされ、会計上の圧迫が大きくなっております。

近年振り込み手数料は金融機関でかなり差が出てきており(表)、窓口、ATM、インターネット利用など利用方法も多様化しております。

<各種金融機関の送金手数料の例>

郵便払込み手数料		
窓口扱	ATM扱	電信払込
¥100	¥60	¥210

銀行名	オンライン		ATM(営業時間内)	
	同銀行間	他行宛	同銀行間	他行宛
りそな	¥0	¥100	¥100	¥400
三井住友	¥105	¥210	¥105	¥210
三菱東京UFJ	¥0	¥210	¥0	¥262
みずほ	¥105	¥210	¥105	¥210
新生銀行	¥0	¥0		
ジャパンネット銀行	¥52	¥168		
イーバンク銀行	¥0	¥160		
セブン銀行	¥52	¥210	¥52	¥210

事務局からのお願い

「鷓朋」第 11 号への原稿募集・・・ご自由なテーマでお書きください！

仕事や趣味について、大学時代の思い出等、テーマは問いません。

原稿は、郵便(原稿用紙やフロッピーディスク)、ファックス、電子メールなどでお送りください。

分量については、柔軟に対応します。写真やイラストつきの原稿も大歓迎です！

締めきり:平成 19 年 6 月 30 日(土)

「鷓朋」の表紙絵、表紙の写真募集！

油絵や水彩・CGIにいたるまで、種類は問いません。是非、皆様の作品をお寄せ下さい。

「鷓朋」編集委員を募集しています！

原稿テーマの企画など、より良く、楽しい「鷓朋」にするために、あなたの力をお貸し下さい！

ご協力頂ける方がおられましたら、自薦他薦を問わず、鷓朋会事務局までご一報を・・・

平成 18 年度分会費納入のお願い

同窓会費をまだお送りいただいていない方はできるだけ早く同封の振込用紙にて納入下さいますようお願い申し上げます。(平成 19 年 3 月 10 日現在で未納の方には請求を同封しておりますのでご確認ください。) オンライン振り込みも開始しました。

毎回督促がましくご請求申し上げ誠に心苦しいのですが、何分本会は皆様方からの会費のみで運営いたしております。なにとぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

宛 先: 〒599-8531 堺市中区学園町 1-1
大阪府立大学大学院工学研究科
海洋システム工学分野気付 鷓朋会事務局
TEL/FAX: 072-254-9914
E-mail: doso@marine.osakafu-u.ac.jp



大阪府立大学工学部 鷗朋会 第 45 回理事会報告

日時:2006年11月28日(火)18:00~20:00

場所:大阪府立大学 A6 棟 海洋システム工学科会議室

出席者:定兼会長(大 15), 岩崎副会長(大 20), 池田副会長(大 21), 田中(造 3), 保田(造 3), 片岡(大 2), 岡本(大 5), 城野(大 8), 杉山(大 12), 吉久(大 13), 西田(大 17), 三宅(大 30), 有馬(大 37), 山田(大 37), 坪郷(大 39), 片山(大 41), 桂樹(大 50), 山本(大 54)

以上 18 名(敬称略)

会長挨拶:議事に先立って定兼会長より挨拶があった。田中先生の叙勲受賞が報告され、花束が贈呈された。

議長選出:岩崎副会長が議長に選出された。

議事:

(1) 報告事項

a) 平成 18 年度会計中間報告

山田理事により資料に基づき平成 18 年度会計中間報告がなされ異議なく了承された。なお、以下の説明が補足された。

- ・振り込み手数料が、今年度値上げされ、70 円から 100 円となった。
- ・鷗朋第 8 号郵送が前年度執行予定であったものが、今年度となったため通信費が増額となった。

b) 編集委員会報告

- 三宅理事により資料に基づき報告が行われた。
- ・編集委員を増員したい旨の提案があり、承認された。

(2) 協議事項

a) 平成 19 年度会計予算案に関する件

山田理事より説明され承認された。

b) 同窓会費納入の現状と改善策について

山田理事より、今年度会費納入状況分析により、若年層の納入率が低調である旨報告された。現状の改善策として、会費納入方法の見直しおよび各期(若年層)理事の見直しと強化(在阪同窓会員の選出による理事会出席率の向上と同窓会への参加強化)が必要であるとの提案が行われた。会費納入方法については、利便性、手数料等の検討結果に基づき、インターネットバンキングが提案された。

協議の結果、インターネットバンキングのための口座を開設することが承認された。

以上

平成 19 年度会計予算案

(H.19.4.1-H.20.3.31 単位:円)

収入の部		支出の部	
前期繰越	409,055	振込手数料	80,000
同窓会会費	1,600,000	通信費	275,000
理事会会費	50,000	役務費	677,200
		会議費	100,000
		事務費	70,000
		印刷費	356,000
		備品費	50,000
		雑費	3,000
小計	1,650,000	小計	1,611,200
		次期繰越	447,855
合計	2,059,055	合計	2,059,055